

## 認め協力し合う学級活動の工夫

～ 係活動の取り組みを通して～

那覇市立石嶺小学校教諭 外間 明子

### テーマ設定理由

近年、少子高齢化、核家族化等児童を取り巻く環境は大きく変化し、集団的な外遊びや勤労体験、社会体験の不足が指摘されている。それに伴い人間関係も希薄化し、児童の豊かな人間性や社会性の育成に大きな影響を及ぼしている。

このような社会情勢を受けて、教育課程審議会は教育課程の改善の基本方針を答申し、その中で「豊かな人間性や社会性を育成すること」の重要性を指摘している。

児童に豊かな人間性や社会性を育成するためには、人間的な触れ合いを深めることや、互いに認め合いながら協力して活動するといった体験を積み重ねることが大切である。このような課題を解決するためにも、集団活動として展開される特別活動を重視し、学級において、児童が集団の一員としての所属感や連帯感をもち、互いに認め協力し合える学級集団を育成することが重要だと考える。

これまでの実践を振り返ると、話し合い活動において、自分なりの考えを発表したり、集会活動に楽しんで参加したりする児童の姿が見られた。しかし、その話し合い活動や集会活動は単発的なもので終わってしまうことが多かった。また、児童の活動を励ましたり児童が互いに活動のよさを認め合う場面を設定したりするなどの教師の支援が十分でなかったことから、学級への所属感や連帯感をはぐくんだり、互いに認め合うという態度を育てるには至らなかった。

そこで、児童の自主的な活動で学級生活を豊かにするために、年間を通して取り組む係活動を工夫したいと考えた。小学校学習指導要領解説特別活動編によると、係活動は「学級の児童が学級内の仕事を分担処理するために、自分たちで話し合っただけの組織をつくり、全員で幾つかの係に分かれて自主的に行う活動であり、児童の力で学級生活を豊かにすること」をねらいとしている。教師は、より意欲的に係活動に取り組むことができるように、児童の自主的な話し合いを支援し、その活動の認め合いの場を意図的・計画的に設定する必要がある。そうすることにより、児童が「自分も学級の役に立っている」という充実感を味わい、互いに認め合い、協力して活動しようとする自主的、実践的な態度を育成することができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

### 研究目標

係活動の取り組みを通して、児童が互いに認め協力し合える学級活動の工夫について研究する。

### 研究方針

- 1 活動意欲を喚起する係の編成や教室環境について工夫する。
- 2 常時活動への支援について工夫する。
- 3 児童が互いの活動に関心をもち、認め合う活動や話し合い活動の支援について研究する。

## 研究の内容と方法

### 1 認め協力し合える学級集団を育成するために

児童に豊かな人間性や社会性を育成するという現代社会の課題を達成するためにも，集団活動を通じた教育活動である特別活動を重視する必要がある。

その特別活動の目標の中で，「集団の一員としての自覚を深め，協力してよりよい生活を築くこと」の重要性が指摘されている。このような目標を達成するためには，児童が共に活動することを通して互いのよさを認め合い，協力し合う体験を積み重ねることが重要である。

とりわけ学級においては，「話合いの活動」「係の活動」「集会の活動」の3つの活動を通して，互いに認め協力し合える学級集団を育成することができるよう取り組む必要がある。

本研究では，年間を通して，児童が常時活動として取り組むことのできる係活動に着目した。係活動において，話合いのもち方を工夫したり，共に活動し，互いの活動を認め合ったりする活動を意図的・計画的に設定したりすることを通して，互いに認め協力し合える学級集団を育成することにつながると考える。

### 2 係活動の意義

#### (1) 学級活動における係活動の位置づけ

学級には，学級生活を維持するために，仕事を分担して輪番で行う日直や掃除，給食等の当番活動と，学級生活を豊かなものにするために，児童の創意工夫によって行われる係活動がある。

学級活動の中でも，児童の創意工夫を生かすことのできる係活動は，児童が自分の考えを出しやすく「自他の個性を発見し，理解し，一人一人のよさや可能性を伸ばす」ことができる。また，責任をもって役割を果たしたり，友達と協力して活動したりする場面が多いことから，「豊かな社会性を身に付ける」という点でも大きな役割を果たす。さらに，学級における常時活動として位置づけられていることから，児童の活動への自主的な取り組みや成長の過程を様々な場面でみとり，支援していくことが可能になる。

このような活動を通して，児童の自主的，実践的な態度をはぐくむことができる。

#### (2) 係活動で身に付けさせたい力

「児童の力で学級生活を豊かにすること」をねらいとしている係活動において，その過程で，以下のような力を身に付けさせたいと考える。

少人数での活動を通して，自分の考えを述べたり，友達の考えを受け入れたりするとともに，係のよさや活動内容を学級の友達に伝えるという活動を通して互いに認めたり，アドバイスし合ったりするコミュニケーション能力を身に付けさせる。

計画を立て，その計画に基づいて活動することにより，企画力や実行力を身に付けさせる。

与えられた役割を責任をもってやり遂げたり，友達と協力して活動したりすることを通して，社会性を身に付けさせる。

活動をよりよくしようとする意欲をもち創意工夫する力を身に付けさせる。

このような観点で係活動に取り組ませることにより，互いに認め合い協力してよりよい

学級をつくっていきこうとする自主的、実践的な態度が身に付くと考える。

### 3 支援の工夫

#### (1) 活動意欲を喚起するための工夫

児童は係の活動を通して、自主的、実践的な態度を身に付けることができる。そのために、児童が「やっていて楽しい」「やりがいがある」と感じ、意欲的に活動することができるように係の活動を工夫することが重要である。

#### 係の編成の工夫

児童の活動意欲を喚起する係編成の工夫として、以下のことが挙げられる。

係活動の具体例を提示し、それを参考にしながら、児童が興味・関心や特性を生かすことのできる係を話し合いによって設置できるようにする。

誰でも希望する係に所属することができるようにする。

係の編成を学期に一回と決めず、必要に応じて児童の話し合いをもち、新たな係を設けたり、それまであった係をなくしたりすることができるようにする。

ただし、編成の際には次のような点に留意する必要がある。同時に2つの係に所属する場合には、その活動や話し合いを行う時間が重なることが考えられる。その際に、係同士連携し、活動する時間帯をずらしたり、係内の連絡を密にして話し合いに参加することができなかった児童への連絡をしたりするなど配慮が必要である。そのため、児童がより協力し合う必要性が出てくる。また、係をなくしたり、所属する係を変更したりする際には、その係の必要性や係の変更を希望する児童の考えについて学級や係で話し合い、活動への意欲が薄れてしまったり、係内のトラブルから安易に係を変わったりすることのないように、十分考慮する必要がある。

#### 教室環境の工夫

児童の活動意欲を喚起する工夫の1つとして、教室環境を整えることも挙げられる。

まず、教室後方壁面に係の活動コーナーを図1のように設置する。図1のお知らせコーナーには係から学級へ知らせたいこと、図1には各係の紹介、図1には各係の活動計画を掲示できるようにする。お知らせコーナーの掲示物については、同じ掲示物が貼られたままということがないように、その掲示物を見た人はシールに名前を書いて貼っていくことにする。そのシールが20個以上貼られたら、ほとんどの児童が目を通したとして、掲示物を新しく貼りかえるようにする。また、図1には学級の友達

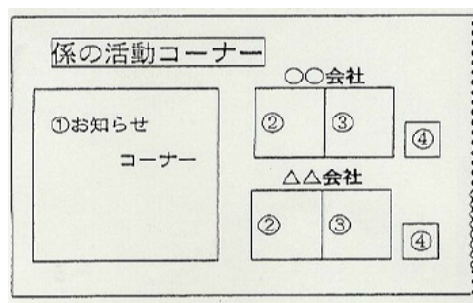


図1 係の活動コーナー

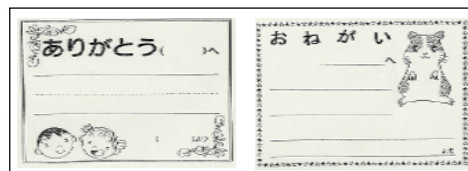


図2 ありがとうカードとおねがいカード

から係へ伝えたいことを「おねがいカード」と「ありがとうカード」(図2)で伝えることができるように係ごとのポストを設置する。「おねがいカード」をもらった時には朝の会や帰りの会の時間等を活用して紹介し、そのお願いに対してどのような対応をしていくのか学級に伝え、他の児童からもアドバイスをもらえるようにしていく。

次に、活動がスムーズに行えるように、各係ごとの棚を設け、そこにマジックや用紙等、活動に必要な道具を保管させ、いつでも活動に取り組めるようにする。

このように教室環境を整えることで、他の係活動にも関心を持ち、そのよさを自分たちの活動に生かしたり、計画に沿って活動したりするなど活動に対する意欲を高めることができると考える。

## (2) 常時活動を支える工夫

常時活動である係活動は、児童の自主性や自発性に基ついた活動である。時には、その意欲が減退したり、活動が停滞したりすることも考えられ、常に意欲をもち活動を続けていくことは、児童にとって容易なことではない。そこで教師は、児童の常時活動を支えるための工夫をする必要がある。

そのために、朝の会や帰りの会等の時間を活用して、係の一週間毎の活動計画を立てさせることで、児童が次にどのような活動をするかを意識できるようにする。また、朝の会の時間に係のPRの時間を位置づけ、各係に割り振ることでどの係も学級みんなに呼びかけることができるようにする。学級において、児童が係活動を意識できるような場と時間を設けることで、互いの活動自体がヒントとなり、そのよさを自分たちの活動にも生かすことができるようになるだろう。

さらに、児童自身による活動への評価を計画的に行うことが重要である。自分たちの一週間毎の活動が、計画に沿ってどれだけ実行できたかを自分たち自身で評価することで、活動を振り返り、次の活動に生かすことができる。また、その活動がどれだけ学級生活の向上につながったかを友達と互いに認め合い、評価し合うことで確認し、学級のための活動であるということを意識づけ、さらなる活動意欲を喚起できるようにする。このような評価活動を積み重ねることで、児童が自分たちの活動をさらに充実させるために創意工夫しようとする態度をはぐくむことにもつながるだろう。

また、教師は児童の活動計画を把握し、活動の様子を観察することで児童の活動のよさを認め励ますことができるようにし、活動に対して支援や援助を行い活動への意欲が持続できるようにする必要がある。

## (3) 認め協力し合うための工夫

### カード活用の工夫

児童の常時活動のよさを認め合い、それを伝えることは、さらに活動を工夫し、学級のためにがんばろうという自主的、実践的な態度を育成する上で重要である。それと同時に、活動の工夫改善すべき点を学級全体で考えアドバイスし合い、グループ内だけに限らず学級全体で協力し合って活動の充実を図れるようにすることは重要である。そこで、カードの活用を工夫する。児童の常時活動に対して、学級のためになっていると思える活動には「いいとこ発見カード」を送るようにする。自分たちの活動を認めてもらい満足感を味わうことで学級への所属感を高め、他の活動のよさにも目を向け、それを認めていこうとする態度をはぐくむことができるだろう。また、活動にさらなる工夫改善が必要だと思われる係には「アドバイスカード」を送るようにする。その時には、その活動の問題点を指摘するだけでなく、「こうするともっとよい活動になる」「係でこんなふうに協力するとよい」「自分たちにはこんな手伝いができる」という視点でカードを書かせるようにし、友達と協力し合うことで活動を充実させることができる

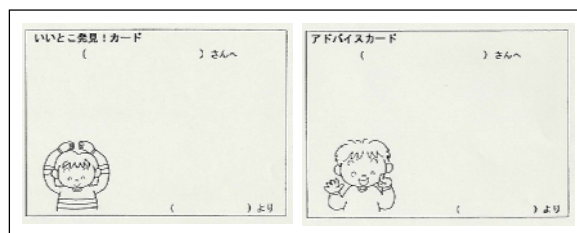


図3 いいとこ発見カードとアドバイスカード

ということを意識させたい。

#### 係活動における話し合いの工夫

学級における諸問題を児童の話し合いで解決することは、児童自身の力で学級生活の充実を図ろうとする自主的、実践的な態度をはぐくむ上でとても重要である。係の活動においても、年間35単位時間（第1学年34単位時間）の学級活動の授業時数を見通して、学級の実態に応じて話し合う時間を適切に配分したり、朝の会の時間等を活用したりするなどの工夫が必要である。

係の話し合いの際には、係の活動が学級の生活の向上につながるかという視点で話し合い、学級全員で活動をよりよいものにしようという意識をもたせることが大切である。話し合いにおいて、児童が自分の考えや思いを自信をもって発表することができるように、前もって自分の考えをカードに記入させることが有効である。また、その係活動が「クラスのためになるか」「みんなが楽しめるか」「やっていて自分も楽しいか」という3つの視点をもたせ話し合いが深められるようにし、活動のよさを認め、さらにより活動にするためにはどうすればよいか考えることで、話し合いがさらなる活動意欲につながるようにする。

#### 授業実践

##### 1 題材名 係活動パワーアップ大作戦！！

##### 2 題材について

###### (1) 児童観

本学級では、4月に児童との話し合いで係決めをしている。これまでの児童の体験から、学級に必要なだと考えられる係を設置しているが、当番活動と係活動との区別がつかず、当番的要素を含む活動が多く設置されていた。また、係の人数を決めて編成を行っているため、希望通りの係に入ることができない児童もいた。

これらのことから、自分たちの学級を豊かなものにするために活動するという意識は低く、係活動の魅力や意義を理解するには至っていないように思われる。

そこで、係を児童の興味・関心や特性を生かすという視点で再編成し、創意工夫しながら活動したり、互いに認め協力し合ったりすることが必要だと考えた。そのことにより、自治的、自発的に係活動を行おうとする自主的、実践的な態度をはぐくみたい。

###### (2) 題材観

児童が、自分の興味・関心や特性を生かして活動することのできる係活動は、より自分らしさを発揮することのできる場である。さらに、その活動を「やっていて楽しいか」「クラスのためになっているか」「みんなも楽しめるか」等の視点で振り返り、互いに認め合う場を設定することにより、児童一人一人が「自分がんばったぞ」という達成感や、「自分もみんなの役に立っている」という自己有用感を味わうことができるであろう。そのことにより、集団への所属感を高め、友達と協力、工夫してさらにより活動にしようとする自主的、実践的な態度がはぐくまれると考える。

###### (3) 指導観

児童の係活動への意欲を喚起し、持続させるためにも、朝の会や帰りの会等を活用して係の話し合いの時間を確保し、係から学級への呼びかけの時間を設けたい。環境面での援助

として、係が活動しやすいように、活動に必要な道具を準備し、活動の記録を残し、学級に掲示できるような場の工夫をしたい。また、「アドバイスカード」や「いいところ発見カード」を用意して、互いの活動を認め合ったり、アドバイスし合ったりできるようにする。さらに、「クラスのためになっている」「みんなが楽しめる」「やっけていて自分も楽しい」という視点で話し合わせ、互いにアドバイスし合ったり、協力し合ったりできるようにし、友達と協力し合うことの喜びやその重要性、創意工夫することの楽しさを実感できるようにしたい。

### 3 指導計画

時	活動内容	ねらい	教師の支援 評価方法
5/10 1校時	学級活動についての オリエンテーション 学級活動には話し合い活動、 係活動、集会活動の3つがあ るということやその役割につ いて知る。 話し合い活動での議題の出し 方や計画委員会のもち方、話 合いの決まりや進め方、基本 話型等について知る。	学級活動が、自分達の自主的な働 きかけで学級生活を豊かにできる活 動だということを理解し、これから の学級生活に希望をもつ。  よりよい学級活動にするために、 話し合いの場でみんなの考えを出し合 うことが大事だということや、議題 の出し方や計画委員会のもち方、話 合いの進め方、基本話型等について 理解する。	これまでの活動例を思い出させ たり、学級活動の活動例を出した りすることで、これからの学級活 動に希望をもてるようにする。  話し合い活動について説明し、自 分たちの学級生活を充実したもの にするために計画的に話し合いを行 うことが大切であるということ を説明する。 (準備)・話し合い活動の進め方 ・計画委員会の進め方 ・学級活動ノート 観察法
6/1 1校時	係活動についての オリエンテーション 係活動と当番活動の違いに ついて知り、これまで行って きた係活動について振り返り、 係を再編成する。	係活動と当番活動の違いについて 理解し、これまでの係活動を振り返 る。 「クラスのためになる」「みんな が楽しめる」「やっけていて自分も楽 しい」という視点でどんな活動がで きるか考える。	創意工夫できる係活動の例を提 示し、係活動への具体的なイメ ージをもてるようにする。 再編成の時に、「クラスのため になる」「みんなが楽しめる」「や っけていて自分も楽しい」という視 点を明確にする。 観察法
6/1 7/16 朝の会 帰りの会 昼休み 放課後	係の話し合い・活動 係ごとに集まり、これから の活動について話し合った り、実際に係の活動を行っ たりする。	係で話し合い、役割分担をしたり、 今後の活動について計画を立てたり して、協力して活動できるようにす る。	係での話し合いの場を設けること によって、活動に対する意欲を高 め、より工夫できるようにする。 よい事は互いに認め合い、困っ たことは学級全体で考えるという 視点をもたせる。 (準備)・係活動計画表 ・ありがとうカード ・お願いカード ワークシート・観察法
6/7 6/9 朝の会 帰りの会	各係のPR活動 係の取り組みや学級にお願 いしたいこと等をみんなに伝 える。	係の友達と協力してPR活動を行 うことができる。 自分以外の係が取り組んでいるこ とやお願いしたいこと等について知 る。	係の取り組みを発表する場を設 けることにより、計画的に活動に 取り組めるようにする。 係の取り組みのよさを取り上 げ、活動意欲を喚起したり、これ からの活動に生かすことができる ようにする。 観察法

6/16 1校時 朝の会 昼休み	「係活動パワーアップ大作戦!!!」に向けての準備 とりのこ用紙に、係活動で「工夫・がんばっていること」「やってみたいこと」「困っていること」をまとめる。  他のグループのまとめたものを見て、その係の「よい点」「アドバイスしたい点」をカードに記入する。	グループの友達と協力して、活動の様子をまとめることができる。 「やってみたいこと」について、係活動の工夫の3つの視点、「クラスのためになるか」「みんなが楽しめるか」「自分も楽しいか」に気を付けながら考えることができる。 係活動の工夫の3つの視点に留意しながら、他のグループの取り組みについて「よい点」「アドバイスしたい点」をまとめることができる。	活動をまとめたり、他の係のまとめたものを見る時に、係活動の工夫の3つの視点に沿った内容になっているか留意させる。 (準備)・いいとこ発見カード ・アドバイスカード ワークシート・観察法・とりのこ用紙
6/22 2校時  6/18 6/21 6/23 6/25 朝の会	「係活動パワーアップ大作戦!!!」(本時) 係ごとに、これまでの活動の様子や、これからやってみたいことを提案する。	係活動の工夫の3つの視点に気をつけてお互いにアドバイスし合ったり、認め合ったりすることができる。 自分の係についてまとめたことを、発表することができる。	係活動の工夫の3つの視点を意識させるように、提案の賞賛をしたり、助言したりする。 ふりかえりカードを用意し、係活動の3つの視点から話し合いを振り返ることが出来るようにする。 (準備)・いいとこ発見カード ・アドバイスカード ・ふりかえりカード ワークシート・観察法

#### 4 評価計画

児童の活動を認め励まし、次の活動に生かしていくためにも、教師は児童の活動の様子や自己評価、作品や活動記録などをもとに、適切に評価する必要がある。また、児童の自己評価については、どのような視点で評価を行うかの共通理解を図り、児童の常時活動を児童自らが振り返って評価したり、相互評価したりすることを積み重ねることが重要だと考える。

##### (1) 学級活動内容(1)の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上を目指して、学級内の組織づくりや仕事の分担など、身の回りの諸問題に関心を持ち、友達と協力して意欲的に取り組もうとしている。	学級の一員としての自覚をもち、友達と協力しながら、学級や学校の生活の充実と向上を目指して諸問題の解決について考え、判断している。	話し合いの活動などにおいて、自分の考えを発表し、友達の考えと比較したり、役割を分担したりして活動することができる。	話し合いの活動や係・集会などの実践を通して、学級内の組織づくりや生活上の諸問題の解決方法を理解している。

(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

##### (2) 係活動の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
前期	活動計画に沿って、友達と協力して意欲的に活動しようとしている。	互いの活動のよさを認め合い、友達と協力して学級生活の充実と向上を目指して活動を考え判断している。	互いの考えを出し合いながら、役割を分担して活動することができる。	係活動の具体的な内容や必要性、価値等を理解している。
後期	学級生活の向上を目指して、身の回りの諸問題に関心を持ち、友達と協力して意欲的に活動しようとしている。	学級の一員としての自覚をもち、友達と認め協力し合いながら、学級の生活の充実と向上を目指して活動を考え判断している。	他の係との連携を図りながら、学級生活の充実と向上を目指して活動することができる。	友達と認め協力し合う活動を通して、学級生活の充実と向上を図る方法を理解している。

(3) 本題材で育てたい資質や能力

活動計画に沿って、友達と協力して意欲的に活動しようとしている。(関心・意欲・態度)  
互いの活動のよさを認め合い、友達と協力して学級生活の充実と向上を目指して活動を考え、判断している。(思考・判断)

互いの考えを出し合いながら、役割を分担して活動することができる。(技能・表現)

係活動の具体的な内容や必要性、価値等を理解している。(知識・理解)

5 本時の学習

(1) 題材名 「係活動パワーアップ大作戦！！」

(2) 本時で育てたい資質や能力

友達の提案を、興味・関心をもって聞き、係の友達と協力してまとめたことを発表しようとする。(関心・意欲・態度)

「クラスのためになる」「みんなが楽しめる」「やっていて自分も楽しい」という視点で、活動のよさや工夫できる活動について考える。(思考・判断)

自分の考えをカードに書いたり、発表したりすることができる。(技能・表現)

活動のよさや改善点を理解している。(知識・理解)

(3) 目標

「クラスのためになる」「みんなが楽しめる」「やっていて自分も楽しい」という視点に立って、互いの活動のよさを認め合い、工夫改善できる点をアドバイスし合うことにより、係活動をさらによくしていこうとする意欲をもつことができる。

(4) 本時における具体的な手だて

「いいところ発見カード」や「アドバイスカード」を前もって書かせることで、自分なりの考えをもって話し合いに参加できるようにする。

係の活動の工夫として、「クラスのためになる」「みんなが楽しめる」「やっていて自分も楽しい」という視点で考えさせ、話し合いが深まるようにする。

(5) 本時の展開

	活動の流れ	予想される児童の反応	教師の支援( )と評価( )
導入	1. 始めのあいさつ	元気よく会を始める。	クラスのキャッチフレーズを全員で言わせることで、明るく元気にスタートできるようにする。
	2. 司会の紹介	大きな声ではっきりと紹介を行う。	
展開	3. めあての確認	全員で大きな声ではっきりとめあてを言う。	「クラスのためになる」「みんなが楽しめる」「やっていて自分も楽しい」という3つの視点を確認し、それに基づいて係のよさやアドバイスを考えさせるようにする。
	4. 教師の話 係活動の工夫の3つの視点を提示する。	静かに教師の話聞く。	
展開	5. 各係の提案 スタディ会社 ・一週間がんばった人には、賞状をあげることにする。 ・宿題調べを作って、宿題を出したか確かめる。	賞状をもらおうとやる気が出ると思う。 漢字クイズや社会科クイズなど、勉強に関係するクイズなどを考えてもいいと思います。 テストで百点をとった人にも賞	友達の提案に興味・関心をもって聞き、係の友達と協力してまとめたことを発表しようとする。 (関心・意欲・態度) 前もって用意させた「いいところ発見カード」「アドバイスカード」をもとに、自信をもって発表できるようにす



展 開	・みんなががんばってくれるように、がんばり賞をあげる。 ドリームショップ	状態をあげてはどうですか。	る。
	・アンケートやポストを作ってみんなのやりたいことを集めた。 ・くじ引き大会、ドッチボール大会をやりたい！ ・工作や絵が上手な人、お手伝い募集！ ・ゲームなどで、音楽を使う時はミュージック会社をお願いしたい。	ドッチボール大会なら、スポーツ新聞会社さんと協力してはどうですか。 工作は好きなので手伝いたいです。 ゲームの時はミュージック会社も手伝います。 さっそくアンケートをとったり、ポストを作っているのはすごいと思います。 くじ引き大会はおもしろそう！	他の係と協力しようとする姿勢を評価し、他のグループの意欲を喚起する。 「クラスのためになる」「みんなが楽しめる」「やっていると自分も楽しい」という視点で工夫できる活動を考える。 (思考・判断) 自分の考えをカードに書いたり発表したりすることができる。 (技能・表現)
終 末	6.今日の活動の振り返り 7.教師の話 8.終わりのあいさつ	各係の提案を聞いたり、提案したりすることによって気付いたこと、感じたこと等を振り返りカードに記入し発表する。 静かに教師の話を聞く。	活動のよさや改善点を理解している。 (知識・理解)  「花」という詩を紹介し、これからの係活動への意欲を喚起できるようにする。

## 結果と考察

### 1 手立て(1)の検証

係の編成と教室環境を工夫することによって、児童の活動意欲を喚起することができるだろう。

本学級では6月に係の活動についてのオリエンテーションを行い、係の活動は、自分たちの力で学級生活をより楽しくするために工夫することができる活動であるということを確認し、活動を見直し、再編成を行った(図4)。また、係の活動コーナーや各係ごとの棚を設けた。ここでは、係を再編成し、教室環境の工夫をすることで児童の活動への取り組みや意識に変化が見られたかということから、児童の活動意欲が喚起できたかを検証する。

#### 【結果1】係の編成の様子

再編成前	再編成後
音楽係・体育係・配り係・保健係・学習係・図書係 給食係・掲示係・お誕生日係	スポーツ新聞会社・ドリームショップ・ミュージック会社 相談会社・スタディ会社・石嶺新聞会社 お楽しみカンパニー

図4 係の立ち上げ(再編成前と後)

係の再編成を行うことで7つの新たな係が誕生した。再編成前は、児童のがんばる姿は見られたものの、その活動が学級生活を維持するための当番的活動になっていたのに対し、再編成後は児童が活動を創意工夫しようとする視点が生まれ、係活動に取り組む姿が見られるようになった。「スタディ会社」や「ミュージック会社」は再編成前にあった学習係、音楽係の活動も引き続き行っているが、再編成後はその活動に加え、学習クイズを考えて出題したり、アンケートをとり学級のみんなが好きな歌のランキングを行ったりする等、児童のアイデアを生かした活動も行われた。また、「スポーツ新聞会社」と「ドリームショップ」

はそれぞれに活動を行っているが、今後、2つの係が協力してそれぞれの特徴を生かしながら、学級スポーツ集会を行うことを計画中である。「相談会社」については、困っている友達の相談にのりたいということで立ち上げられたが、相談をする友達が少なく、活動が停滞してしまっただけでなく、学級の問題を解決するための活動を行ってはどうかとアドバイスしたところ、「学級で困っていること」についてのアンケートをとり、そのランキングを行うことで学級の友達にも学級の問題を意識させ、その問題を今後どのように解決していくかの提案をすることになった。

【結果2】生き物会社設立までの流れ

6月に、学校での出来事をまとめて記事にすることを目的に男子5人、女子2人のメンバーで「石嶺新聞会社」を立ち上げた。イラストを募集しコンテストを行い、優勝者に賞状を作成して渡す等の活動を行ない、友達から「楽しかった」等の感想も聞かれた。

その後、「石嶺新聞会社」のメンバーのうち男子4人から、「生き物会社を設立したい」との希望が出された。そこで、学級の友達に新しい係を立ち上げてよいか確認したが、教室の中で生き物を飼うということに賛成してもらえず、立ち上げることができなかった。

しかし、その後も「生き物会社を立ち上げたい」という強い希望があったので、どのように活動を行えば設立可能なのかを話し合った結果、生き物会社を設立することになった。

「生き物会社」設立後は、学級の友達が持ってきてくれた生き物を飼育したり45分の休み時間に昆虫採集に出かけたりするなど、意欲的に活動している。また、新聞会社の活動としても、国語の授業で扱った、とんぼを観察して新聞にまとめるという学習を生かして、飼育している生き物の記録を新聞にまとめることを計画するなど意欲を示した。

【結果3】お楽しみカンパニーの活動の様子

児童	編成前の回答	編成後（お楽しみカンパニー）の回答
A	給食の時に宿題を調べる。（学習係）	メダルを作ったこと。
B	忘れ物をした人は運動場を10周させる。並んでいる時にうるさかったら、教室にもどす。（体育係）	45分の休み時間や朝の会の時にゲームをしていること。
C	計画してプリントを配ること。（配り係）	みんなで紙芝居を作ること。
D	体育着を忘れないように言う。（体育係）	ゲームをして勝った人には賞状を作ってあげて、負けた人には残念賞としてメダルをあげたこと。

図5 アンケート「係で工夫していることはなんですか」という質問に対する回答

めあて	時	場所	やること(内容)	担当者
みんなで作るが合う2人組の意見を出し合う。みんなが楽しむゲームをする。	月 15分	教室	話し合い	全員
	火 15分	教室	カンパニーのコミニカル	M
	水 45分	教室	紙飛行機作り大会	T
	木 15分	教室	話し合い	全員
	金 45分	教室	ゲーム	Y

図6 活動計画表

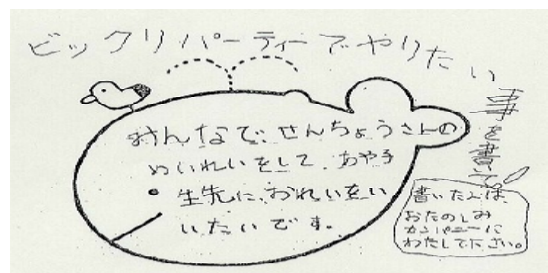


図7 お楽しみカンパニーが作成したアンケート

【考察】

結果1にあるように、係の活動内容を見直し再編成を行うことで、児童が活動を工夫し、意欲的に活動している姿が見られた。しかし、相談会社については、児童がやってみたいと思っていたような活動にはなっておらず、今後さらなる支援が必要である。

結果2の「石嶺新聞会社」については、学校の情報を集め記事にしたいという理由で設

立されたものの、情報を収集することができず、活動をうまく展開させることができなかつたために、活動が停滞してしまった。その後、メンバーのうち数人から「興味のあることを係の活動としていいのか」という教師への確認があり、「生き物会社」を設立したいとの希望が出され、生き物会社を立ち上げることになった。その後の活動でも意欲的に活動していることから、児童の興味・関心を生かすことのできる係を編成することで、児童の活動への意欲を喚起できたのではないかと考える。

結果3のお楽しみカンパニーのメンバーは、編成前はそれぞれ学習係、配り係、体育係(2人)に所属していた(図5)。編成前の係で「工夫していたこと」を見てみると、「給食時間に宿題を調べる」「体育着を忘れないように言う」等、当番的な活動を挙げている。しかし、自分も楽しめる活動をしよう意識づけ、編成を行った後のお楽しみカンパニーの活動では、工夫したことを「メダルを作ったこと」「45分にゲームをやっていること」等、活動の内容自体を自分たちなりに工夫し、意欲的に活動していることがわかる。また、一週間毎の活動計画を立て、その計画に沿って活動したり(図6)、係のお知らせコーナーを活用し、ゲームのお知らせをしたりするなど工夫している。さらには、お世話になった担任の先生のために、ビックリパーティーを企画し、学級の友達にアンケートをとり(図7)、その計画を進める等、意欲的に活動している。

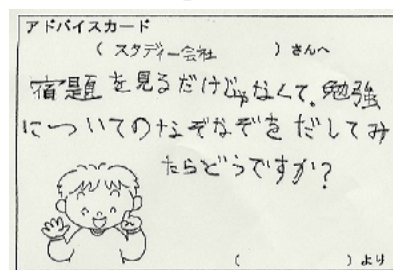
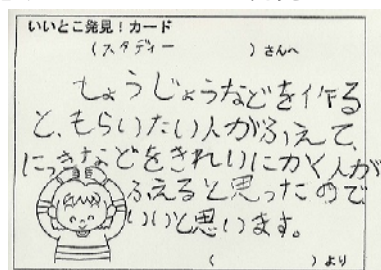
これらのことから、係の編成や教室環境を工夫することによって、児童が興味・関心や特性を生かした活動を考えたり、工夫したり、学級の友達に情報を提供したりする等、活動意欲を喚起することができたと考える。

## 2 手立て(2)の検証

カードを活用したり、話し合い活動を工夫したりすることで、互いの活動に関心を持ち、認め協力し合うことができるだろう。

互いに認め合ったりアドバイスし合ったりできるような話し合い活動にするために、前もって「いいところ発見カード」「アドバイスカード」を書かせ、話し合いを行った。また「クラスのためになる」「みんなが楽しめる」「やっていて自分も楽しい」という3つの視点をもたせることで、話し合いが深まるようにした。カードの活用や話し合いが互いの活動に関心を持ち、認め協力し合えるような活動であったか、「いいところ発見カード」「アドバイスカード」(結果1)と、話し合いの様子(結果2)から検証していく。

### 【結果1】児童の「いいところ発見カード」「アドバイスカード」



### 【結果2】児童の話し合い活動の様子

- C1: 学習調べを早く調べるように努力しているのがいいと思います。
- C2: 宿題を見るだけでなく、勉強についてのなぞなぞを出してみてもどうですか。
- C3: なぞなぞをするなら、給食時間にやってみては?

- C4：なぞなぞを宿題に出したら楽しくなるのでは。  
 C5：宿題を楽しくできるようにしたらいいのでは。  
 C6：グループで話し合っ、なぞなぞをするか考えた  
 いです。(スタディ会社)



#### 【考察】

係の話合いをする際には、事前に「いいところ発見カード」 写真 話合い活動の様子  
 「アドバイスカード」を書かせるようにした。「いいところ発見カード」にはその係のよい  
 点を、「アドバイスカード」には、みんなでその係をよりよいものにしようという意識を  
 もって書かせるようにした。そうすることで、結果1に見られるように、その活動のよさを  
 認め励ます意見やクラスのために係の活動をよくしようと前向きなアドバイスが多く出  
 され、協力しようという態度が見られるようになった。

結果2の児童の発言を見ると、C1の児童は、スタディ会社の常時活動にも目を向け「ク  
 ラスのためになる」という視点で活動のよさを認めていることがわかる。また、C2～C  
 5の児童は「みんなが楽しめる」という視点に立って話し合っている。このように、学級  
 全員で話合いをすることで、活動のよさを認め合ったり、アドバイスをし合ったりする  
 ことができた。また、どのように活動すればよいのかを、係のグループで話し合う等、さら  
 なる活動へと展開されることが期待できる。

これらのことから、カードの活用や話合いを工夫することで、児童が互いの活動に関心  
 をもち認め合い、協力し合うことができたのではないかと考える。

### 研究の成果と課題

#### 1 成果

- (1) 児童が意欲的に係の活動に取り組むことのできる係の編成や教室環境について工夫する  
 ことができた。
- (2) 児童が互いの活動に関心を持ち、認め協力し合えるようなカードの活用や話合い活動を  
 工夫することができた。

#### 2 課題

- (1) 係の活動を行う時間の配分と進め方を工夫する必要がある。
- (2) 児童の活動意欲を喚起することのできる常時活動の評価を確立する必要がある。

#### 《主な参考文献と引用文献》

「小学校学習指導要領解説特別活動編」	文部科学省	東洋館出版社	1999
「個を生かす集団活動と学級文化の創造」	宮川八岐	東洋館出版社	1997
「新しい教育課程の展開小学校特別活動」	宮川八岐編著	東洋館出版社	2002
「子どももクラスも元気になる係活動マニュアル」	加藤辰雄	ひまわり社	2003